

おおいそが

としがみ

大忙しの歳神さま



昔むかし、そのむかし
大忙しの神さまがおった
神さまのなまえは
歳神さま

歳神さまは秋になると

田畑にでかけては

イネに穂をつけ

実をむすび

山にでかけては

くりの実をあまくし

なんてんの実を赤くし

海にでかけては

エビやカニを

ふとらせ

タイをふとらせ

毎日毎日

しごとをして

おったそうじゃ



ところがじゃ

秋になって

つめたい風が

吹く頃になると

歳神さまはカゼを

ひいてしまったそうじゃ

それでも

くしゃみをしながら

里や山や海に

でかけて働き

「イネよほうさくになれ」

「魚よふとれ」

「木々よ実になれ」

チチンパイパイ、

エイツと

働いていたので

大忙しの

歳神さまは

とうとう

寝込んで

しまわれた



歳神さまが
働けなくなると
こまつたことに

里の田んぼには
イネが実らず
山の木々は枯れ
海の魚は
やせほそり

山のたべものも
海のたべものも

何もできなく
なつてしまった
そうじゃ



そこでごまつた

里と山と海の神さまが

三人であつまりあった

そうじゃ

海の神さまがいった

「なあゝ

里の神どうしたらよい?」

里の神さまがこたえた

「そうだな、

うまいものを

お供えするのは

どうじゃ?」

山の神さまが
つけくわえた

「だったら、

縁起の

よいものを

さしあげよう」



話がおわると
神さまたちは
自分のすむところへもどり

里の神さまは
田畑にむかつて

山の神さまは
山にむかつて

海の神さまは
生きものにむかつて

「みんなの中で
いちばん

縁起のよい
めでたい

食べものをつくれ

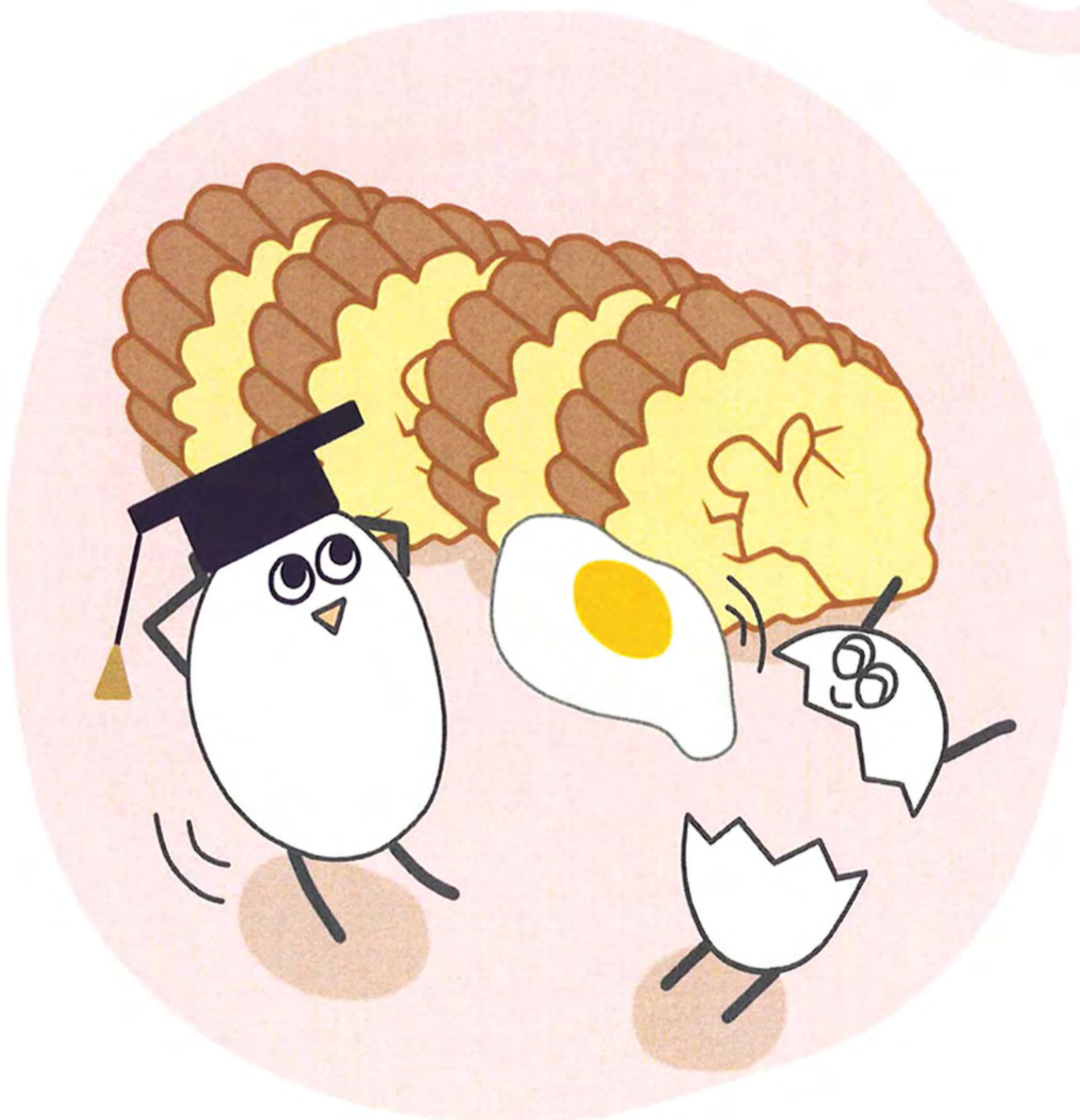
歳神さまに
さし上げる
ごちそうにする」
といったそうじや



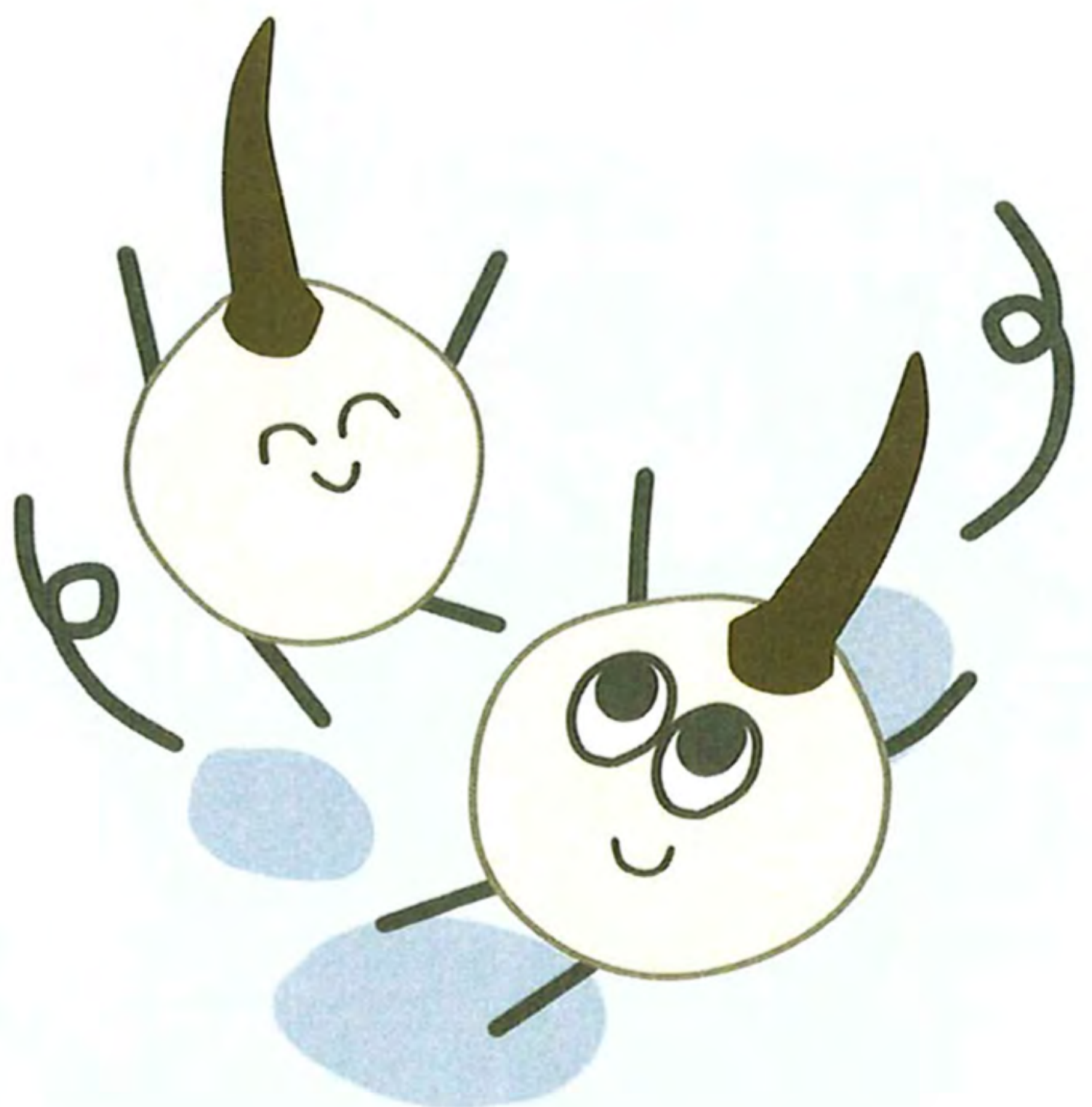


里の畑からは
最初に黒豆が
とび出した
「病気しらず
まめに元気になあれ」

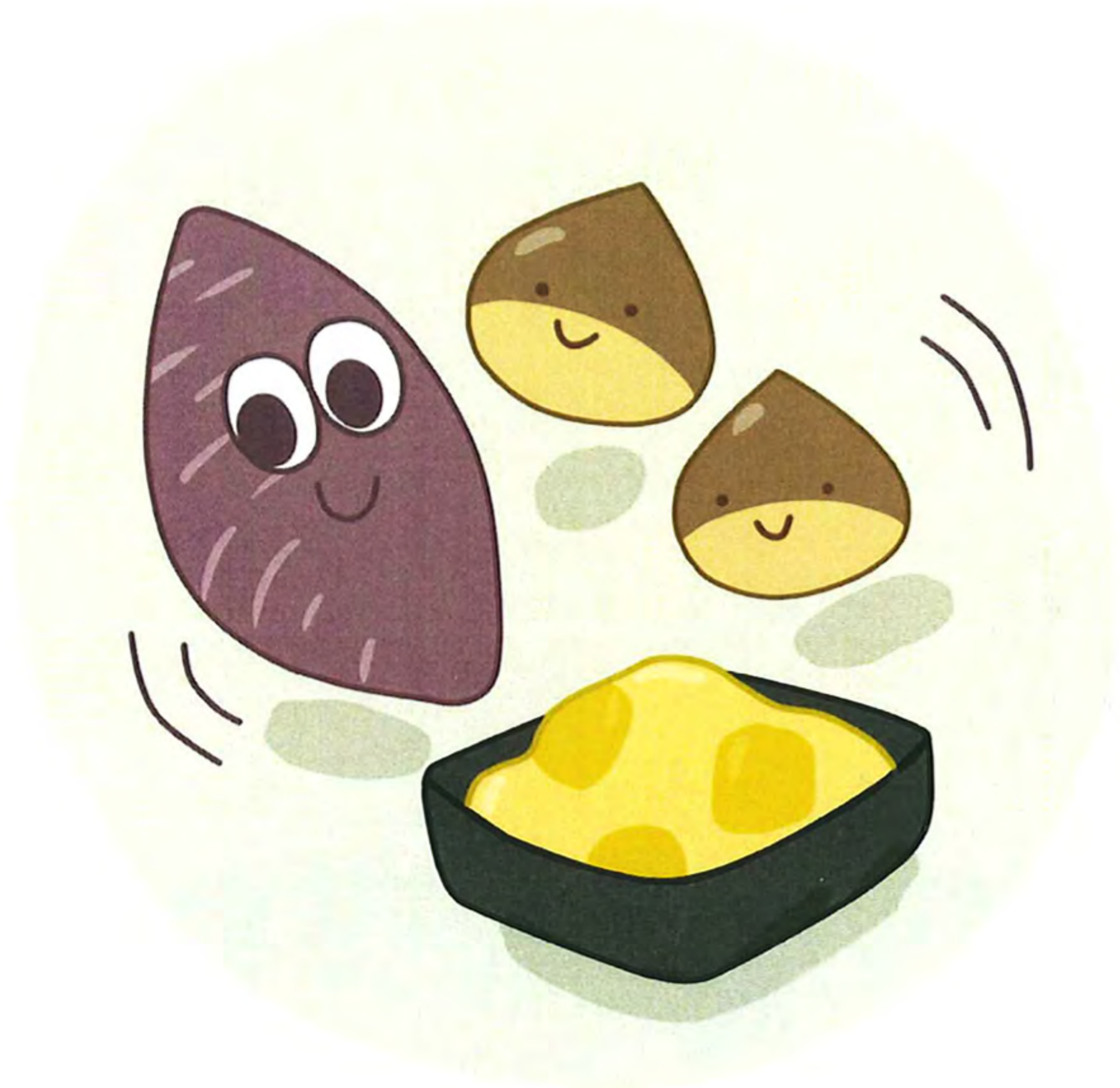
次にたまごが
「伊達巻で、
くるくる頭が
よくなあれ」



そして、
さつまいも
「金銀ゆたかに、
きんとん食べて」



さいごは大根
「しろい大根、
あかい大根、
めでたく
みんななかよし」



くわいも
出てきて
「めがでる、
めがでる、
せいがでる」



山の幸からは

「みんな

力をあわせて

ごちそう作り」

煮物になる野菜たちが

こえを合わせてとび出してきた。

たけのこが

「ぐんぐんのびて、

大きくなーれ」

そして、ごぼう

「ながーく、ながーく、

丈夫でながいき」

ついでサトイモ

「コロコロ赤ちゃんみたいに

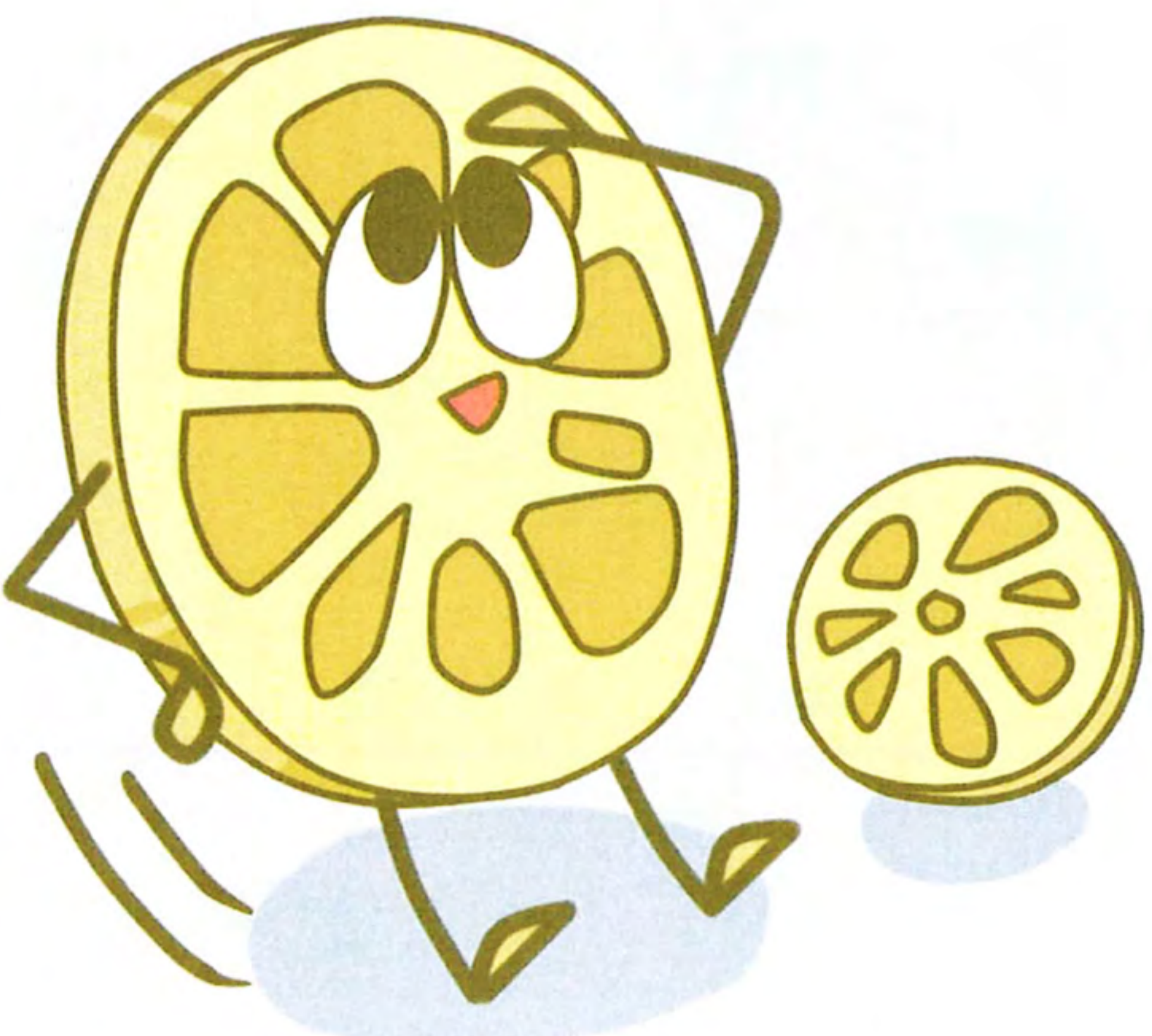
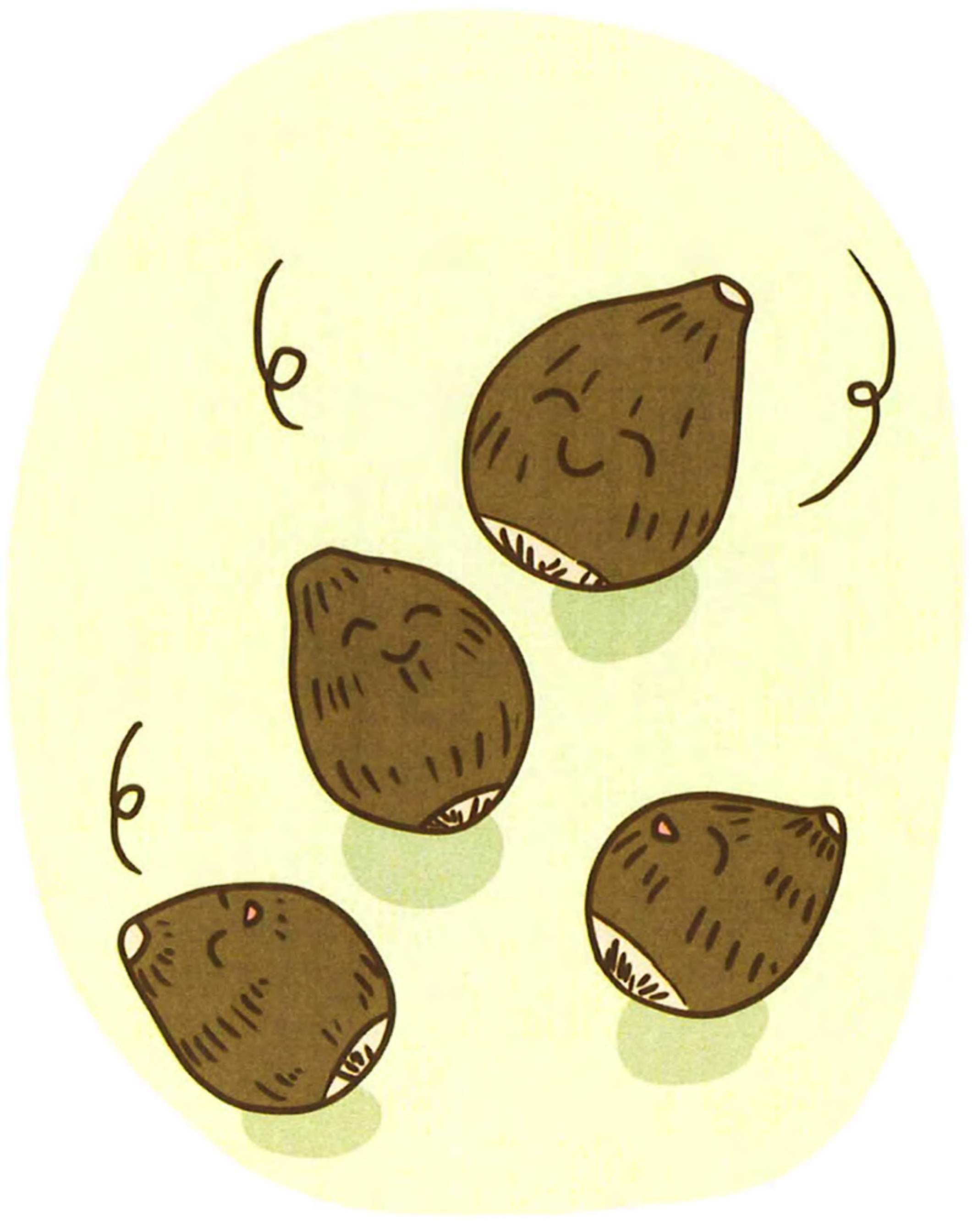
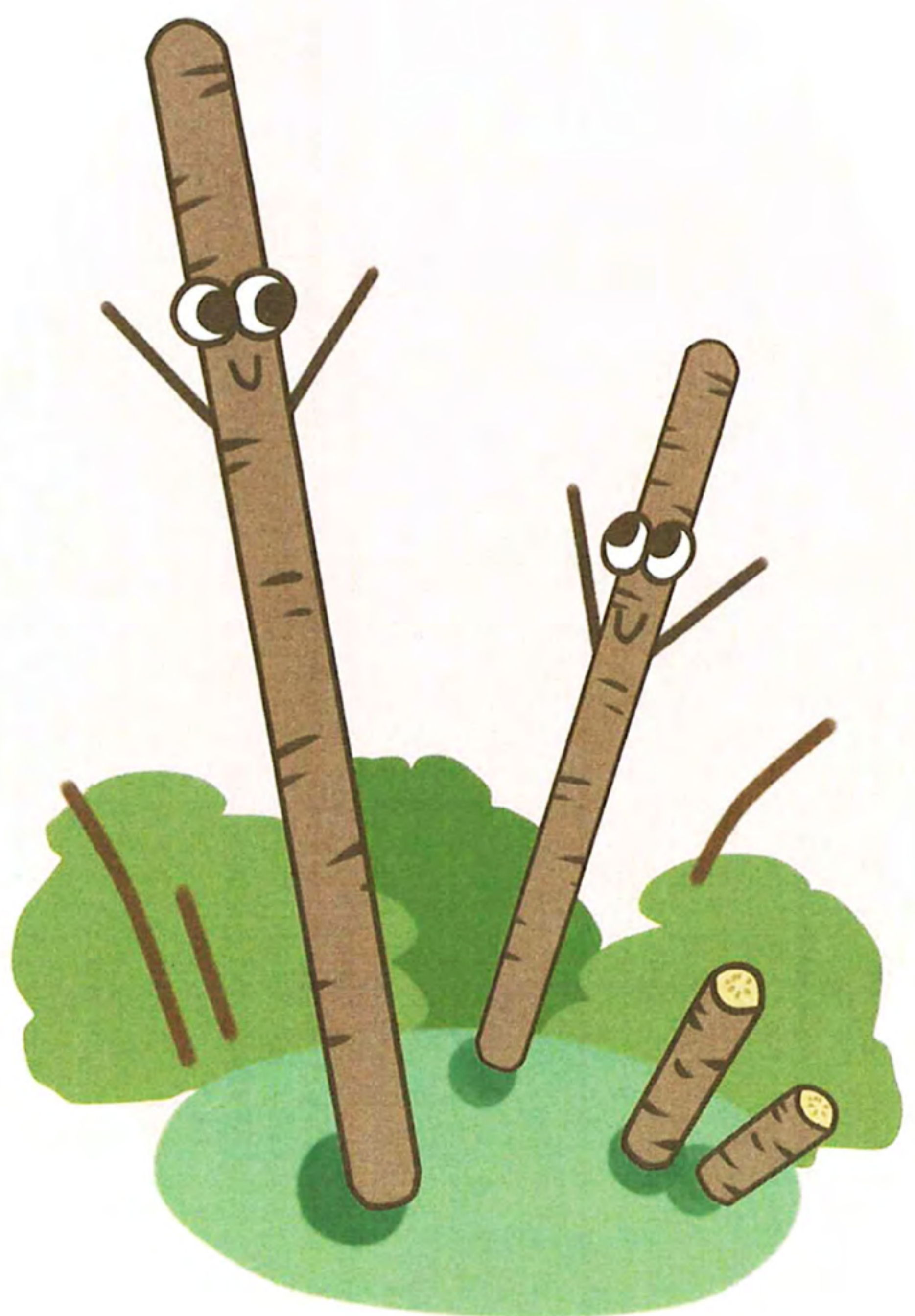
すこやか元気」

さいごにレンコン

「あながあいて

見とおしよく、

頭もすっきりさわやか



海の幸からは
げんきにエビがハネまくり
「こしが曲がるまで
長いき元気」

タイがピチピチ
水しぶきをあげて

「こりゃ、めでたい、めでたい」

コンブがゆらゆら

おどりながら

「コンブたべて、よろこんぶ」

数の子ピカピカ光って

「ふえるよふえるよ、

数がふえるよ」

イワシがあつまり

「イワシで田作り

たっぷり栄養、

田んぼも

ほうさく」

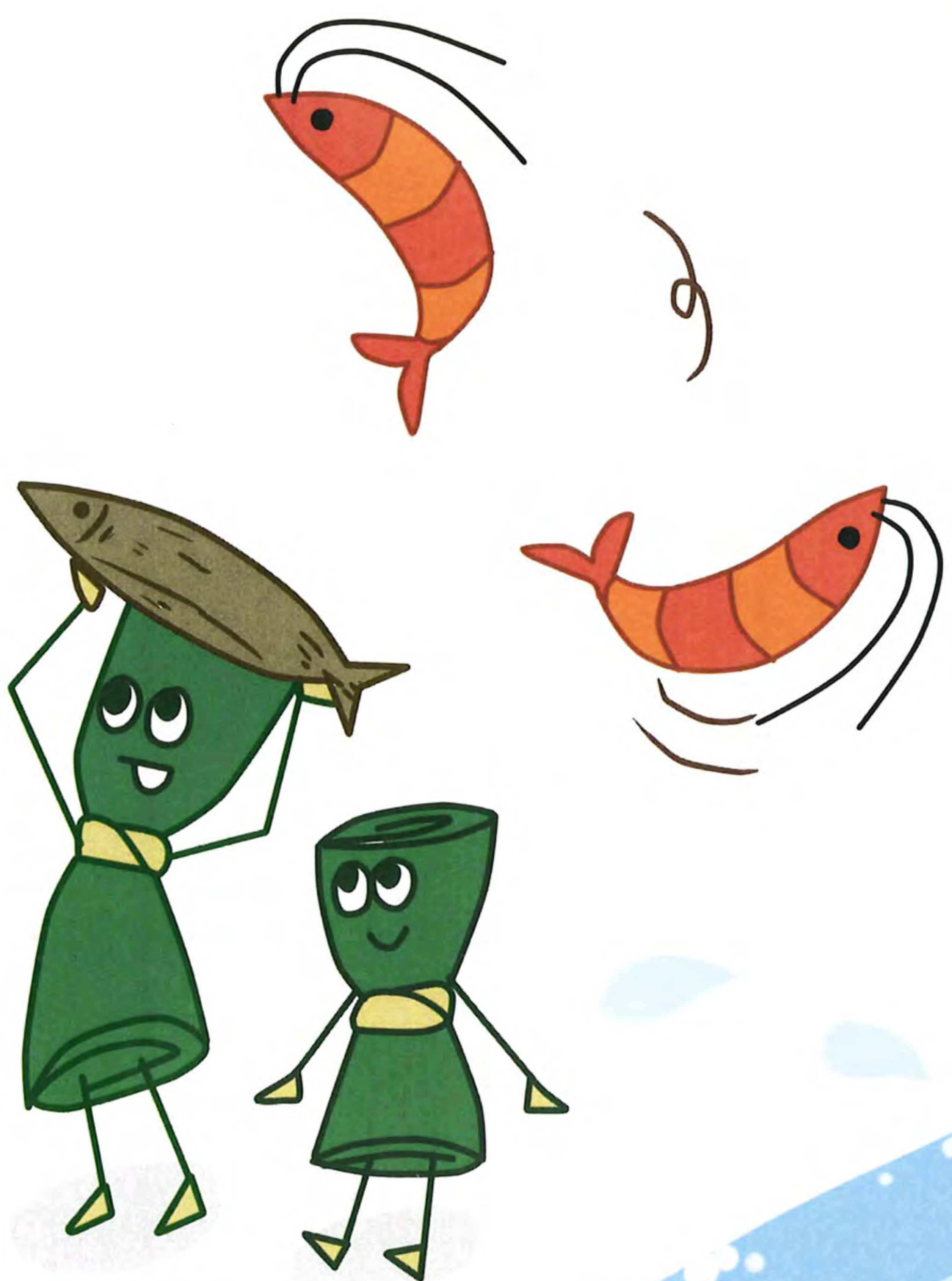
そういうと

料理は次々と

重箱の中に

おさまった

そうな



きがつくとそれは、
師走の月もおわりの
おおみそかの夜の
ことじゃった。

里の神と
山の神と
海の神は
おおいそぎで
歳神さまを
もてなすために

しめ縄をかざり
門松をたてたそうじゃ



そして
神社に向かって
大きな声で

「歳神さまやーい
歳神さまやーい

元気になれる
ごちそうが
できましたよー
どうぞめし上がって
くださいな」

そのこえを聞くと
歳神さまは
神社のとびらをあげ
ガタガタと
ふるえながら
出てきたそうじゃ



「うむ

みなのでできた

料理を

ごちそうになろう」

そうして

きれいにならんだ

重箱にはいった

料理を

ひとくちづつ

食べ始めたそうじゃ



黒豆をパクリ
田作りをパクリ
数の子パクリ
すると鼻水が
おさまり

きんとんをパクリ
紅白なますをパクリ
だてまきをパクリ
すると

元気がみなぎり

おにしめの
レンコンをパクリ
里芋をパクリ
ごぼうをパクリ

すると
みるみる
りっぱな
おすがたに



そうして、
一番どりがなく
あさになるころには

いぜんの
歳神さまの
何百倍もの力が
ついたそうじゃ

それはなんと
お正月の朝の
ことだった



それからは、
歳神さまが
病気で
寝込まないよう

縁起のよい
おせち料理が、
お正月のごちそうとなり

また、歳神さまも
お正月になると
おせち料理が
ある家に
いつてはお礼に、

その家の家族が
一年元気で
すごせるように
しあわせを
おいてくるように
なつたそうじゃ

めでたし、めでたし



正月